

# 地域と連携した環境教育・環境保全の取り組み

飛驒森林管理署 森林ふれあい係長 ○  
業務第一課長

おおにし さおり  
大西 沙織  
じょうしま ひろゆき  
上島 弘幸

## 要旨

森林環境教育の必要性が叫ばれる昨今、これまでも当署では森林教室のマニュアル化や地元団体との交流を深めることを通して継続的に実施できるよう努めてきました。しかしながら管轄区域の拡大に伴い、当署だけでさらに取り組みを広げていくには限界があるとの認識から、当署は今年度より「クリエイター（創作者）」から「コーディネーター（調整者）」へと生まれ変わることにし、外部のあらゆる組織・団体と協働できる道筋を模索しました。

## はじめに

地域からの要望が年々多様化してきている中、効果的な対応を進めるためには様々な分野の団体と連携する必要があると考えます。これを踏まえ、今年度の当署のコーディネーターとしての取り組みは、この後に挙げる3つの活動を柱としています。この中で、1に挙げる「遊々の森における新たな取り組み」と、3に挙げる「双六池の土砂流入防止と植生復元」は、今年度より中部森林管理局が推進する「森林官等の新たな発想による取り組み」の一つとして取り組んだものです。

## 1 森林環境教育活動「遊々の森における新たな取り組み」

高山市奥飛驒温泉郷にある栃尾小学校では、協定を結んでいる「遊々の森」において毎年活発な活動が展開されており、当署としても協力をしてきたところですが、今年度は活動の幅を広げるために岐阜県をはじめ様々な団体と協働しました。今年度行われた3回の活動について紹介します。

### (1) 第一回 森林のはたらきを学ぶ

#### 【岐阜県・NPO法人「山の自然文化研究センター」と協働】

第一回目は、栃尾小学校の5年生を対象とした「森林のはたらき」がテーマでした。当署の職員による森林教室に加えて、岐阜県の林業普及指導員からは、森林の保水実験を行いながら森林の機能について説明がありました。また、NPO法人の方からは樹木の繁殖について専門的な見地からお話しいただき、実際にタネの模型を飛ばして見せることで子供たちの興味を引きつけ、分かりやすく観察させてくれました。森林のはたらきを体感した子供たちからは、「森林がある場合と無い場合では水の蓄え方がまるで違うことが分かった。森林を守っていかなければと思った。」と、複数の「森の専門家」による指導のお陰で、楽しみながらもしっかりと森林の必要性について理解してくれたようでした。



記事-1 中日新聞 飛驒版

(2) 第二回 治山の大切さ・ボランティアによる活動を学ぶ

【岐阜県・森林パトロールボランティア(※)と協働】

第二回目は、治山事業について学ぶことと、ボランティアで山を守っている方の話を聞きたいというものでした。当署の治山課が中心となり、堰堤を見学しながら土砂災害の恐ろしさや森林の必

要性について学びました。また、午後から森林パトロールボランティアの方々より清掃登山を兼ねた山岳パトロールの現状についてお話しいただきました。山をつくる大切さ、美しい自然を守る活動の大切さを、子供たちはより身近に感じてくれたようでした。



記事・2 岐阜新聞 飛騨地域版

※ 森林パトロールボランティアとは、夏場に登山者で賑わう国有林の高山帯のパトロールや清掃活動を行うことを目的に、当署に登録していただいているボランティア団体のことであり、現在5つの団体が登録しています。



記事・3 中日新聞 飛騨版



写真・1 堰堤付近に植樹



写真・2 山を守る人々の活動を学ぶ

(3) 巨樹巨木を保護する活動を学ぶ

【岐阜県・平湯巨樹巨木保全協議会・NPO法人「山の自然文化研究センター」と協働】

第三回目は、地元の奥飛騨温泉郷平湯にある巨樹「平湯大ネズコ」の次世代に受け継ぐための保護活動を学びたいというものでした。そこで、平湯巨樹巨木保全協議会の会長を招き、日頃どのような活動をされているのかお話しいただきました。また、NPO 法人の方々からは、それぞれが専門分野とする「動物と木の関わり合い」や「地元に見られる特徴的な樹木」の説明をしていただき、子供たちは青空の下熱心に耳を傾けていました。



記事-4 岐阜新聞 飛驒地域版 平成 18 年 10 月 13 日



写真-3 巨樹を守る大切さを学ぶ



写真-4 落ち葉の栄養ネズコに届け！

その後子供たちは、大ネズコの栄養になるようにと袋いっぱい集めた落ち葉を大ネズコの根元に蒔き、大ネズコの隣の空闲地に、落葉広葉樹であるブナやミズナラの苗木を植樹しました。

#### (4) 遊々の森に始まる岐阜県との連携

(1)～(3)の取り組みを通じて岐阜県と連携する必要性を再確認したことから、遊々の森だけに留まらない新たな分野での協働する場を開拓するため「森林環境教育推進のための打ち合わせ会議」を実施しました。両者が連携することで効果を生む取り組みについて話し合い、以下の3項目が挙げられました。

- ア 環境教育を担う人材育成のための連携
- イ 森林教室等の要請があった場合の相互協力
- ウ 森林環境教育プログラムの共同作成

これらを具体的に進めるために、今後も定期的な打ち合わせ会議を実施して情報交換を行うこととなり、独自の活動から協働での活動へ道を拓くことができました。

## 2 森林環境教育活動「飛驒高山学生会議森林分科会での林業体験」

11月中旬という飛驒地方では雪の舞う季節に、「飛驒高山学生会議」の一環で林業体験を行いたいという要請がありました。これは、平成16年から毎年高山市で開催されている会議であり、岐阜県の大学生によって企画・運営され、参加した学生たちが各々の興味ある分科会に分かれて仲間同士学び合い、討論し合うものです。その分科会の中に「森林分科会」があり、「林業体験を通して森林を身近に感じたい。岐阜県の林業の現状を知りたい。」という目的を果たすために、当署に協力要請があったものです。

### (1) 岐阜県の林業の現状を学ぶ

#### 【飛騨高山森林組合と協働】

学生からの要望である岐阜県の林業の現状を伝えるためには、国有林野行政の我々だけで対応するのでは十分でないと考え、木材生産者サイドの声を直に伝えるために、地元の飛騨高山森林組合に民有林の情報発信の協力を依頼しました。

当日は、地域材で建てられた飛騨高山森林組合の事務所内を見学させていただき、飛騨地方の林業情勢について具体的な説明をいただきました。その後、

バスに乗り換えて民有林の現地見学を行い、植栽後間もない林分から保育間伐を行ったばかりの林分まで順を追って見学し、成長段階に応じた森林施業の必要性をお話いただきました。現場の生の声を聞いた学生たちからは、「50年かけて育てても儲からないなんて知らなかった!」「お金をかけずに木を育てる方法はないのですか?」など、



写真-6 植栽後の林分を見学

林業のおかれている現状にショックを受けていました。しかし、厳しい状況においても森林組合の方々の前向きに努力されている姿勢を知り、国産材を自分たちが率先して使うことが必要なのだと実感してくれたようでした。



写真-5 民有林の現状を学ぶ

### (2) 雪の中での林業体験

午後からは断続的な吹雪の中、当署の森林官、基幹作業職員の指導の下で保育間伐の体験を行いました。基幹作業職員によるチェーンソー伐倒やチルホールによるかかり木処理を見学し、足元が滑りやすいこと等を注意した後、3グループに分かれて作業しました。安全第一のため径級の小さいヒノキを選んで伐倒しましたが、初めて体験した学生からは「寒いし、なかなか伐れなくて疲れたけど、倒れる瞬間は感動しました。」と、冬場の林業の厳しさと同時に充足感も味わってもらえたようでした。



写真-7 ヒノキの保育間伐体験

### (3) 協働の効果

当署と飛騨高山森林組合がそれぞれ担当できる分野を分け合ったことで、無理なく効果的な対応が可能となりました。森林についてほとんど知識のない状態で参加していた学生も、岐阜の森林のみならず日本の森林が直面している危機的な状況と課題を見聞きしたことで、よりリアルなものとして捉えられたようで、「学生の立場で何かできることはないのか、大学で活動を広められないか、

それぞれの思いを持ち帰って皆で討論しました。」と後日嬉しい報告を受けました。

### 3 森林環境保全活動「双六池の土砂流入防止と植生復元」

#### 【環境省・双六小屋関係者・森林パトロールボランティアと協働】

北アルプス双六岳の直下に位置する双六池は、高山帯にあるキャンプ場近くの池として広く登山者に親しまれています。しかし、近年縦沢岳からの雪解け水や雨水がキャンプ場を通り、土砂と共に池へ流入するため、池の大きさは1955年頃の半分にまで縮小してしまいました。登山ブームの到来と共に周辺の高山植物も衰退し始め、この現状を憂えた登山客から対策を求める声が、双六小屋を通じ森林官に寄せられていました。

縮小続く「双六池」を保全へ

高山市民時報  
 〒506-8601 高山市南町3-122-1  
 TEL 0577 22 0001 90  
 FAX 0577 22 1011  
 購読料 1日600円  
 毎月1・水・金曜日発行

平成18年8月21日

記事-6 高山市民時報

必要であるとの考えに至りました。そこで、登山愛好家の集まりである当署の森林パトロールボランティア5団体に呼びかけを行いました。その結果、環境省での呼びかけ、当日の登山客の飛び入り参加も含め、総勢約20名がこのプロジェクトに参加してくださり、多くの関係者との協働により作業を無事完了することができました。また、新聞にも大きく報道されました

岐阜新聞 岐阜県内版 P18 2006年8月29日

双六池、土砂流入防げ

北アで保全プロジェクト

有志、排水パイプ埋設

フォーカス  
ぎふ  
Focus Gifu

記事-5 岐阜新聞 岐阜県内版

現地は国立公園特別保護地区に指定されていることから、環境省平湯自然保護官事務所と連携を図り、双六池を守るための最善策について繰り返し熟考しました。そして、標高約2600メートルの高山帯での作業は人力に限られており、登山口から現地まで登るのに6時間弱かかるため、体力や技能のある人材が多く



写真-8 素掘りによる水路作設



写真-9 生分解性マット張り作業



#### 4 クリエーターを育てる取り組み

本論の最も大事なテーマは、関係機関と連携を図りその多様な力をコーディネートすることですが、当署のクリエイターとしての在り方を捨て去ることを意味してはなりません。当署は森林環境教育の担い手としてのスキルアップを図るため、森林官や係員を対象とした勉強会を定期的に行っています。

##### (1) ネイチャーゲーム勉強会

春に行った1回目は、森林教室の導入部分となる「つかみ」に使えるネイチャーゲームを、体験するだけでなく誰もが指導員になったつもりで実践してもらいました。対象者にとって分かりやすい話し方、楽しい盛り上げ方などを各々に考えてもらう機会となりました。



写真-10 ネイチャーゲームの指導方法を学ぶ

##### (2) 広葉樹の見分け方勉強会

秋に行った2回目は、飛騨地方に多く見られる広葉樹を覚えようと、ゲーム形式での植物観察を行いました。樹種名をただひたすら暗記することよりも、それぞれの木の特徴を眺めて楽しむことが大切であり、それをまた他者へ伝えることで自分の知識になることを実感できた勉強会でした。

##### (3) 小学生を相手に実践

(1)の勉強会の後、地元の小学校からネイチャーゲームの要請があったため、勉強の成果を生かす良いチャンスと捉え、より多くの森林官等、特に若い係員には勉強のために参加してもらいました。小学校の校長先生からは「こんなに多くの『森の先生』に来ていただけて嬉しい。子供たちが安全に自然と触れ合い、学ぶことができたことに感謝しています。」とのお言葉をいただきました。

こうして小学校からの要望を叶えつつ、当署職員の人材育成を兼ねた森林教室を行うことができました。今後も継続して様々な勉強会を開催していく予定です。



記事-7 岐阜新聞 飛騨地域版



記事-8 中日新聞 飛騨版

## 5 取り組みの結果

様々な外部団体と連携して環境教育及び環境保全活動に取り組んできた結果、各団体とは非常に友好的な協力関係を築くことができました。中でも、初めて森林教室を協働して実施した飛騨高山森林組合からは、「最初は気乗りしなかったが、取り組んでみたら意外に面白かった。また来年も機会があれば協力しますよ。」との心強いお言葉をいただきました。これが一時的な友好関係で終わることのないよう、土台づくりで満足することなく引き続き協働できる場を設けていく必要があります。



図-1 友好関係の構築

おわりに

今年度の取り組みを継続することで更なる協働の場がつくられることから、平成19年度の方向性は次の4つとします。

### (1) 双六池の環境保全活動の継続

植生の復元状況の確認や設置物のメンテナンスをボランティア団体の協力を得ながら実施していきます。

### (2) 遊々の森における新たな取り組み体制の継続

岐阜県やNPO法人との連携を密にして活動に反映させていきます。

地域から期待される国有林野行政であり続けるために、この他にも地域住民が何を求めているのか情報の収集に努め、活動に反映していきたいと考えています。

### (3) 新たな協力者の獲得

森林インストラクターや他のNPO団体等にも徐々にはたらきかけを行い、新たな協力者を獲得することを視野に入れて取り組みます。

### (4) 岐阜県と連携した地域へのアクション

最終的には岐阜県との太いパイプをつくりあげて、情報交換や定期的な打ち合わせ会議を開催しながら、他団体との協働がよりスムーズに行えるように、さらには飛騨地域への森林環境教育へアクションを起こしていくことを目標に取り組んでいく考えです。

※ 中日新聞社、岐阜新聞社、高山市民時報の各社より新聞記事の掲載について許諾済み